

2021.6.26 ESD-J

サントリーグループの プラスチック基本方針

サントリーホールディングス株式会社
コーポレートサステナビリティ推進本部

SUNTORY



創業者 烏井 信治郎
(1879-1962)

1899年（明治32年）

鳥井信治郎が大阪市西区に鳥井商店を開業
ぶどう酒の製造販売を始める



「やってみなはれ」

現状に満足せず、絶えず成長する企業でありたい

「利益三分主義」

高品質の商品・サービスの提供のみならず、
真に豊かな社会実現に寄与する企業でありたい

サントリーグループの約束

水と生きる

我々の企業理念には、
自然環境と社会（人）とともに
成長するという意思が込められている

我々の**企業理念の本質**を
より一層追求することが
サステナビリティ経営そのもの



本日の内容

1

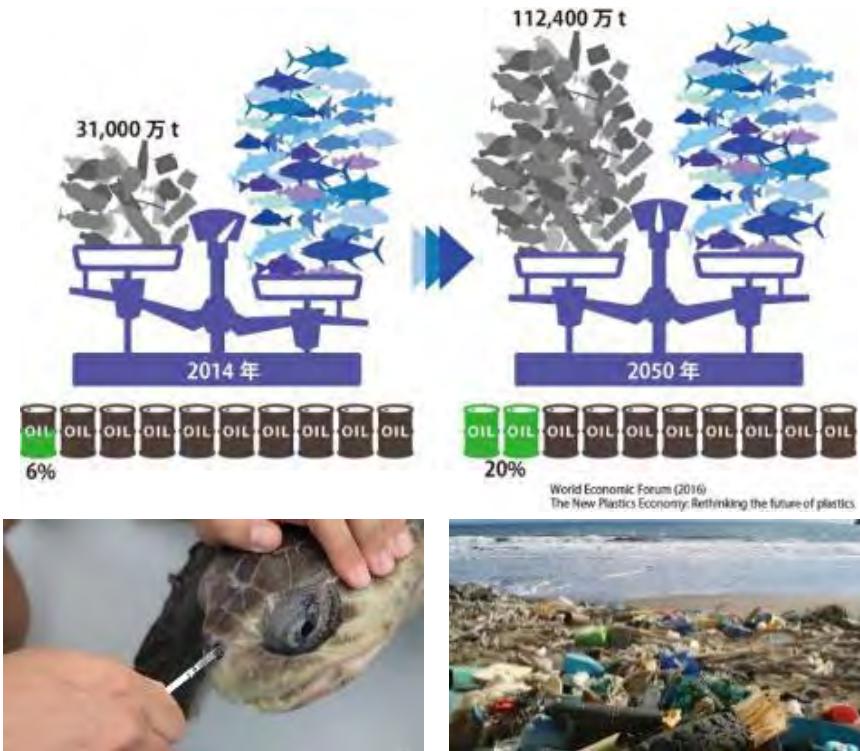
リサイクルの
歴史・仕組み

2

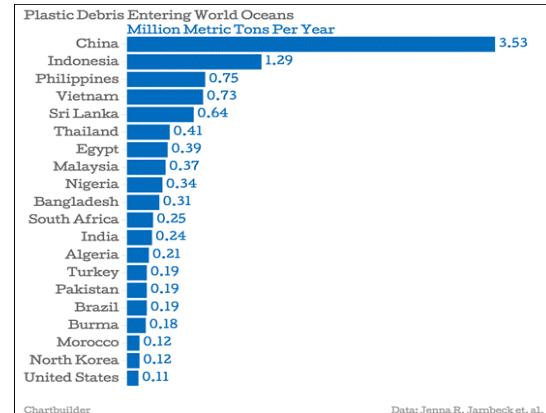
サントリーの
取り組み

- 「海洋プラスチックごみ」が地球規模での環境汚染を引き起こしていると危機感が高まっている

このペースでプラスチックゴミ投棄が増える
と
2050年には魚の重量をプラゴミが上回る



海洋プラごみは
アジアの新興諸国
からの流入が多い



日本沿岸に漂着
したプラスチックごみ
の内訳 (重量比率)

分類	重量
漁網、ロープ	41.8%
ブイ	10.7%
発泡スチロールブイ	4.1%
その他漁具	2.7%
その他プラスチック (ライター、注射器、発泡スチロール片等)	26.7%
飲料用ボトル	7.3%
その他プラスボトル類	5.3%
容器類 (調味料容器、トレイ、カップ等)	0.5%
ポリ袋	0.4%
カトラリー (ストロー、フォーク、スプーン、ナイフ、マドラー)	0.5%
	100%

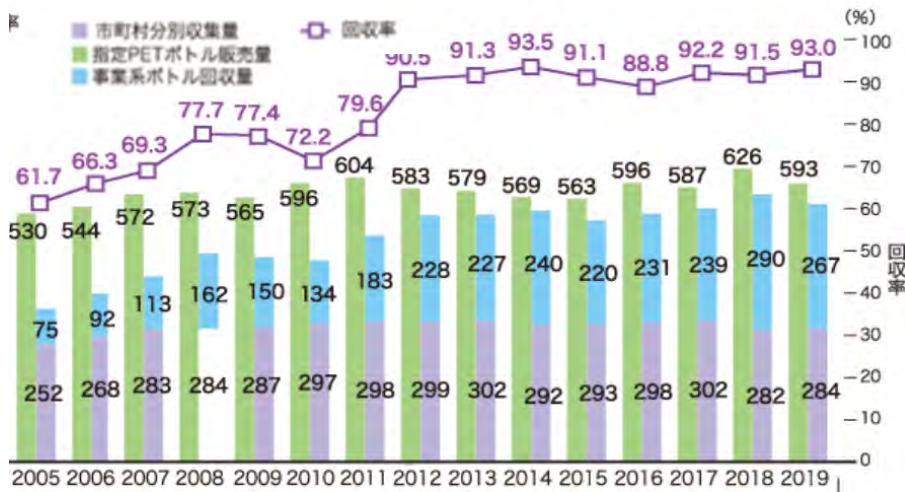
※データ元：環境省による海洋ごみの
実態把握調査

平成28年度全国10地点
(稚内、根室、函館、遊佐、串本、
国東、対馬、五島、種子島、奄美) で
漂着ごみのモニタリング調査を実施。

ペットボトル回収率

93.0%

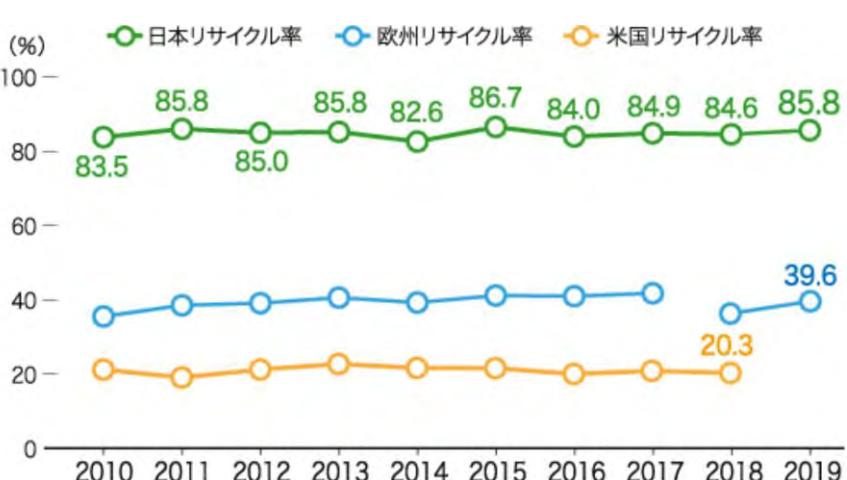
■回収率推移



ペットボトルリサイクル率

85.8%

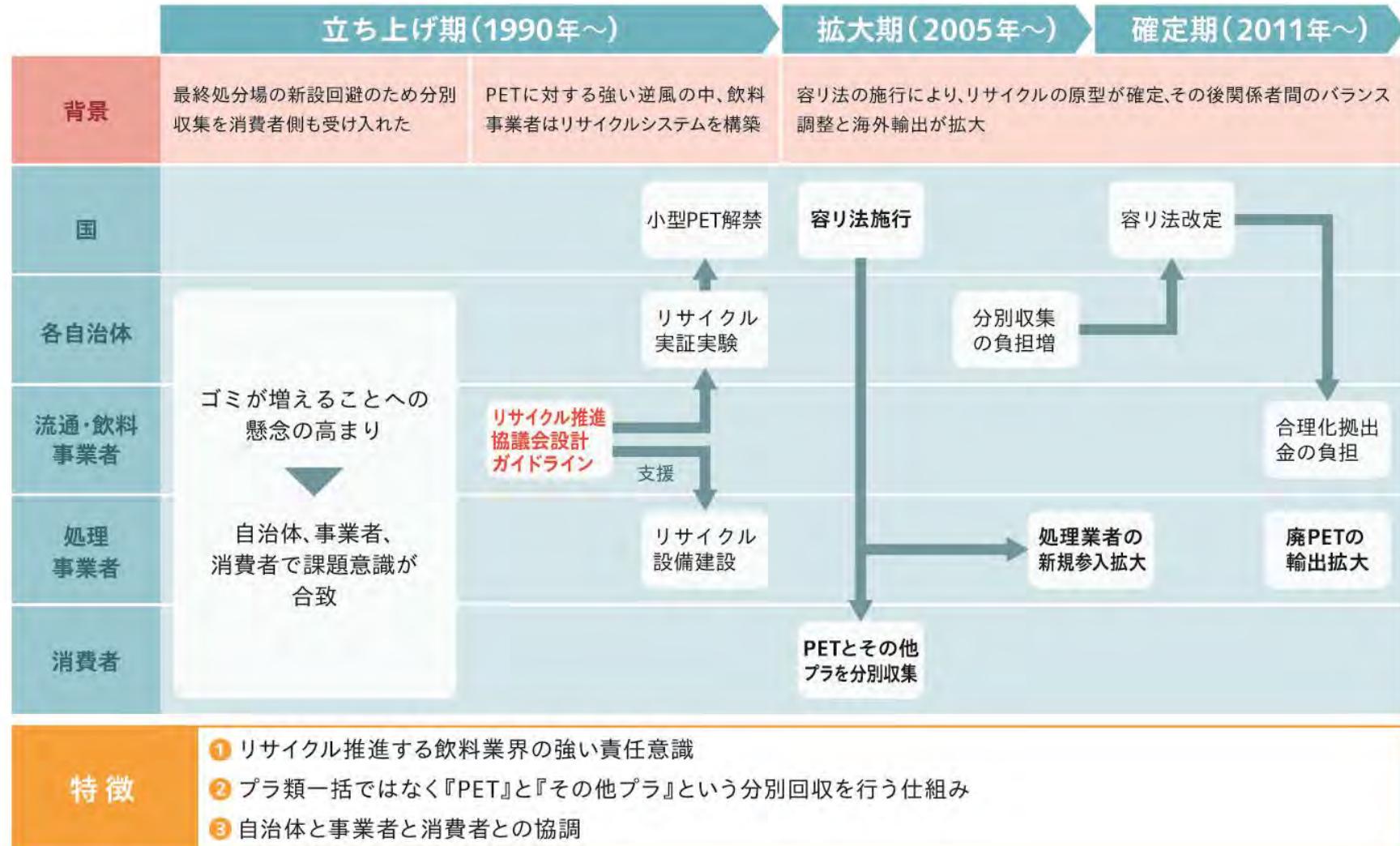
■日米欧リサイクル状況比較

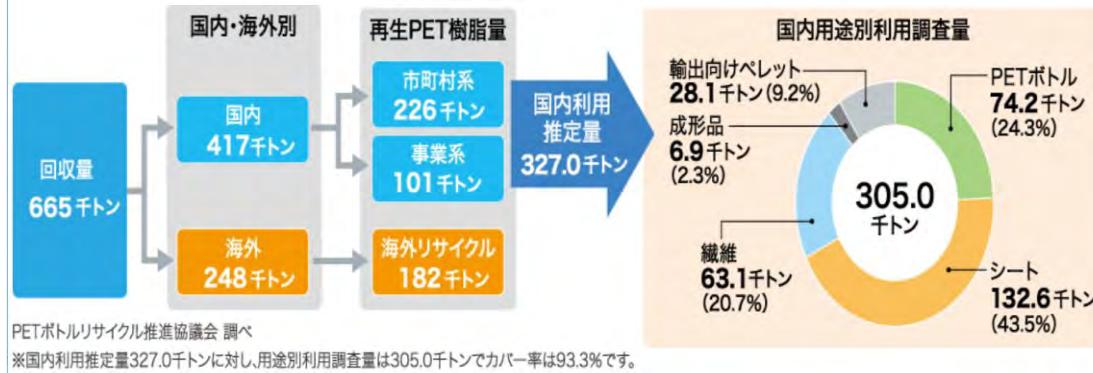


※データ元：
PETボトルリサイクル推進協議会 2019年年次報告書参照



出典：環境省ホームページ





製品例		2018 利用量	2019 利用量	構成比
PETボトル (ボトルtoボトルによる指定PETボトル)		72.7	74.2	24.3%
シート	食品用トレイ(卵パック、青果物トレイなど)	95.7	106.3	
	プリスターパック(日用品などプリスター包装用)	7.0	9.0	
	食品用中仕切り(カップ麺トレイ、中仕切りなど)	3.5	3.0	
	その他(工業用トレイ、文具・事務用品など)	25.6	14.3	
		131.8	132.6	43.5%
繊維	衣類(ユニフォーム、スポーツウェアなど)	13.9	22.0	
	自動車・鉄道関連(天井材や床材など内装材、吸音材)	23.2	21.7	
	インテリア・寝装具(カーペット類、カーテン、布団など)	11.1	8.7	
	土木・建築資材(遮水・防草・吸音シートなど)	6.6	6.7	
	家庭用品(水切り袋、ワイパーなど)	2.7	2.2	
	身の回り品(エプロン、帽子、ネクタイ、作業手袋など)	0.6	1.0	
	一般資材(テント、のぼり、防球ネットなど)	0.2	0.1	
	その他(糸、不織布など)	0.6	0.7	
		58.8	63.1	20.7%
成形品	一般資材(結束バンド、回収ボックス、搬送ケースなど)	2.0	1.8	
	土木・建築資材(排水管、排水栓、建築用材など)	0.4	0.6	
	その他(文房具、事務用品、園芸用品、ごみ袋、衣料関連など)	4.0	4.4	
		6.4	6.9	2.3%
輸出向けペレット		—	28.1	9.2%
他	その他(添加材、塗料用、フィルムなど)	6.7	0.04	0.01%
合計		276.4	305.0	100%

※端数処理のため、数値が合わない場合があります。

ボトルからボトルへの
水平リサイクル

12.5%



水平リサイクル拡大が
課題

―― 本日の内容 ――

1

リサイクルの
歴史・仕組み

2

サントリーの
取り組み

サントリーグループは、環境経営を事業活動の基軸にし、バリューチェーン全体を視野に入れて、生命の輝きに満ちた持続可能な社会を次の世代に引き渡すことを約束します。

1 水のサステナビリティの追求

「水と生きる」をコーポレートメッセージに掲げる企業として、事業活動において最も重要な資源である水を大切に取り扱い、自然界における水の健全な循環に貢献します。

2 生物多様性保全への取り組み

水や農作物に依存する企業として、その価値の源泉である生物多様性を将来にわたって保全することに努めます。

3 イノベイティブな3Rによる資源の有効活用

循環型社会の実現に向けて、不断の技術革新により、原材料・エネルギーなどの3R(reduce, reuse, recycle)を一層推進し、持続可能なビジネスの構築に努めます。

4 全員参加による低炭素企業への挑戦

すべての職場において、気候変動の要因である温暖化ガス排出量の削減に努めます。

5 社会とのコミュニケーション

豊かな地球環境を次世代に継承するため、社会との対話に基づいた取り組みを行うとともに、積極的な情報開示に努めます。

背景・ねらい

近年、プラスチックは、我々の生活に利便性と恩恵をもたらし、また社会的課題の解決にも貢献してきました。しかし、

- ◆廃プラスチック有効利用率の低さ、海洋プラスチック等による環境汚染が世界的課題
- ◆我が国は国内で適正処理・3Rを率先し、国際貢献も実施。一方、世界で2番目の1人当たりの容器包装廃棄量、アジア各国での輸入規制等の課題

2019年5月31日日本政府として策定

■基本原則

- ・わが国におけるプラスチック資源3R+Renewableの徹底
- ・わが国からの海洋流出の防止
- ・途上国を念頭に、国際貢献の推進

■重点戦略

- ・リデュースの徹底、効果的効率的で持続可能リサイクル、再生材・バイオマスプラスチックの利用促進
- ・海洋プラスチック対策（マイクロビーズ削減、ポイ捨て防止、海岸漂着物回収など）
- ・国際展開（わが国の効果的な回収・再利用システムの国際ビジネス展開）
- ・基盤整備（資源循環関連産業の振興、人材育成、技術開発、国民運動など）

※上記の内容は「プラスチック資源循環戦略」を要約・抜粋したものになります。

サントリーグループは、商品の源泉である自然の恵みに感謝し、多様な生命が輝き響きあう世界の実現にむけて、循環型かつ脱炭素社会への変革を強力に先導します。

プラスチックはその有用性により、われわれの生活にさまざまな恩恵をもたらしています。当社が使用するプラスチック製容器包装が有用な機能を保持しつつも、地球環境へネガティブな影響を与えないよう、多様なステークホルダーと、問題解決に向けた取り組みを推進していきます。また、問題解決に向けサントリー社員の一人ひとりが責任ある行動に努め、持続可能な社会を率先して実現します。

2019年5月制定

1

Recycle &
Renewable

2

Reduce &
Replacement

3

Innovation

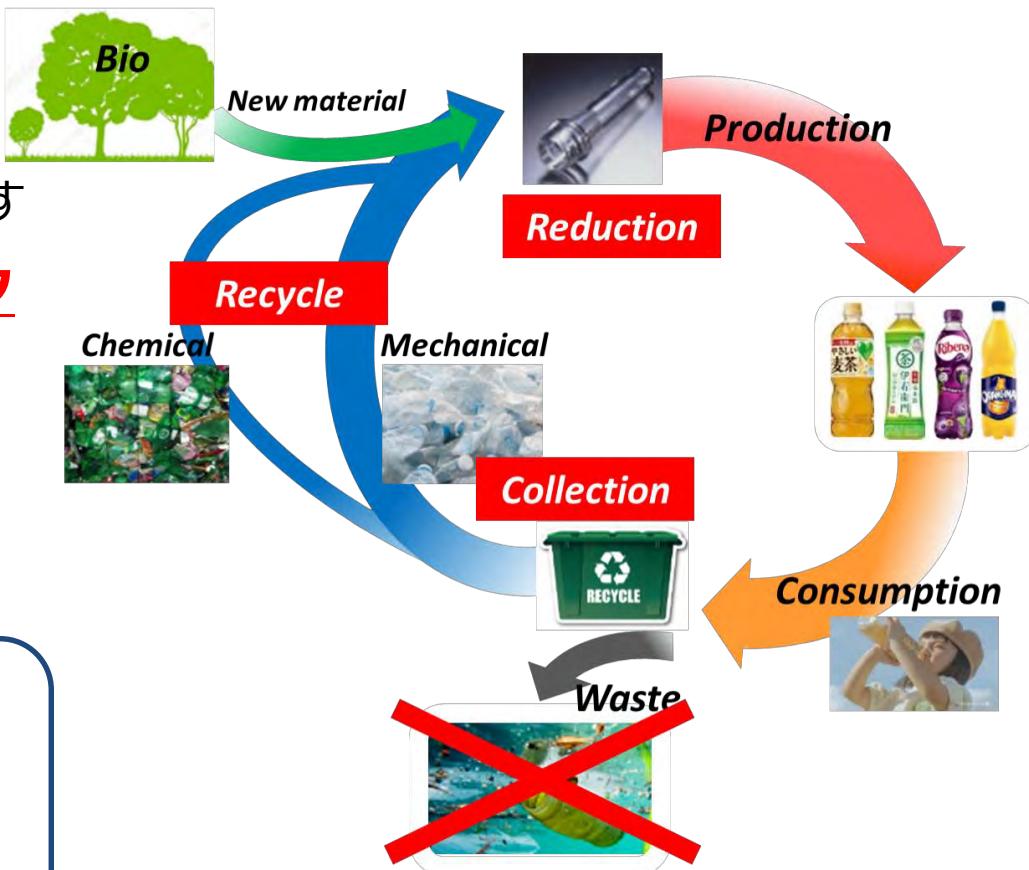
4

New
Behavior

2030年までに、グローバルで使用するすべてのペットボトルを、リサイクル素材あるいは植物由来素材100%に切り替え、新たな化石由来原料の使用ゼロの実現を目指します。

＜中期目標＞

2022年までに国内清涼飲料事業において全ペットボトル重量の半数以上に再生ペット素材を使用



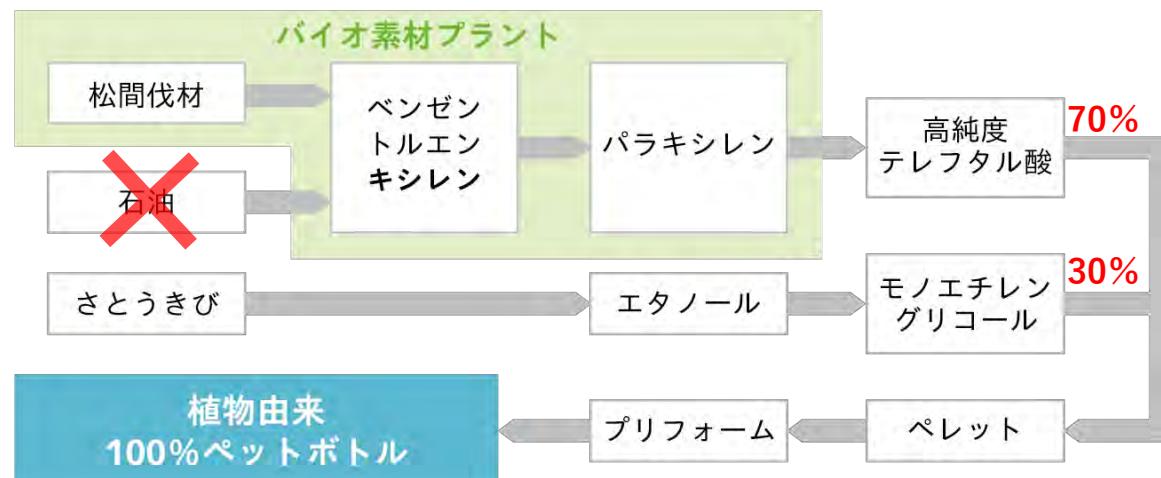


実証プラントの一部

アネロテック社について
(Anellotech Inc.)

2008年創業。米国ニューヨーク州パールリバーに本社・研究開発機能をもつバイオ化学ベンチャー企業。非食用の植物由来原料から石油精製品と同一性能を持つベンゼン・トルエン・キシレン※5を生成する技術開発を進めている。

- サントリーホールディングス（株）と米国バイオ化学ベンチャー企業・アネロテック社が、**植物由来原料100%使用ペットボトル**の共同開発の取り組み
- 植物由来原料（非食用）を使用してペットボトル原料を生成する、**実証プラント**を米国テキサス州に建設
- サントリー食品インターナショナル（株）の「**サントリー天然水**」ブランドを中心に**植物由来原料100%使用ペットボトル**を導入予定

2023年より
導入開始を
目指す



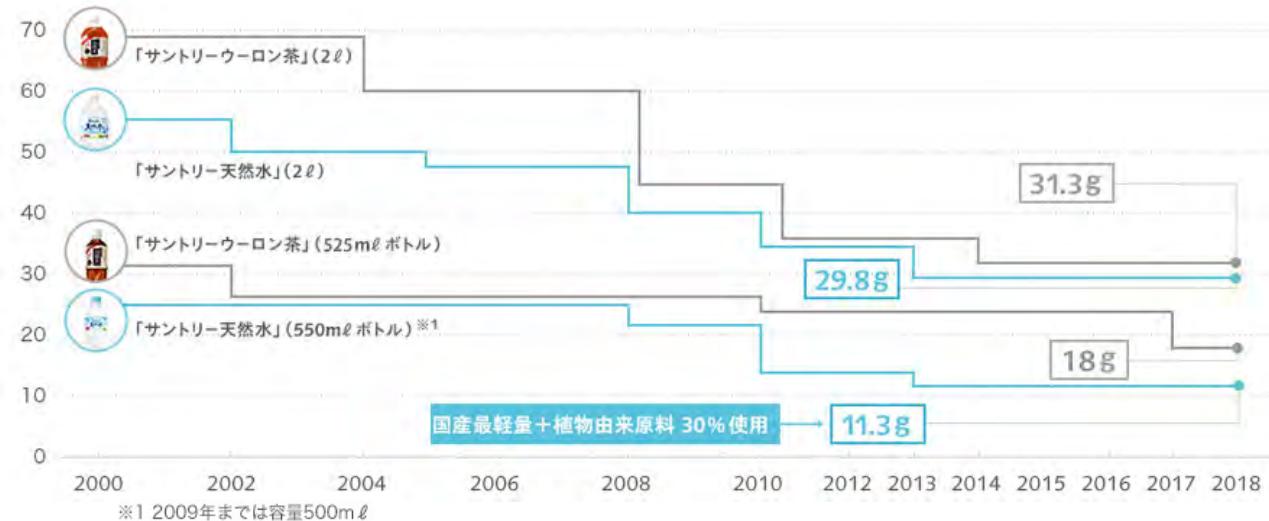
国産最薄12マイクロメートル
再生PET樹脂を80%使用

従来品に比べてCO₂排出量を約25%削減

国内最軽量クラス29.8g

CO₂排出量を年間約7,200t削減

容器重量 (g)



厚さ12μmの
国内最薄ロールラベル

国内飲料業界で初めて

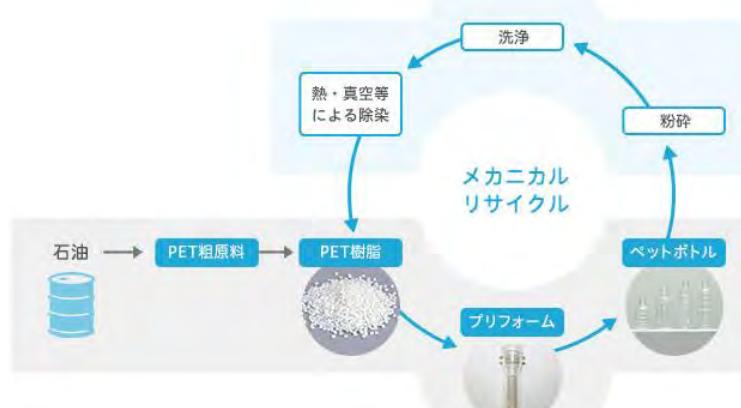
ペットボトルのボトルtoボトルリサイクルシステムを開発

世界で初めて開発

最先端リサイクル技術である「FtoPダイレクトリサイクル技術」

BtoBリサイクルシステム

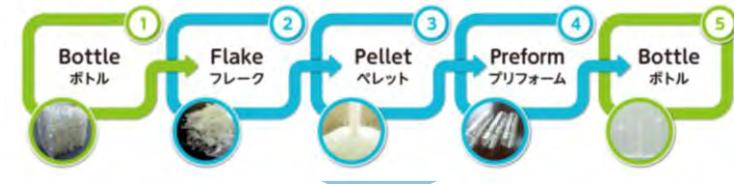
使用済みボトルを再生して新たなボトルを生み出すB to B（ボトルtoボトル）発想のもと、PET樹脂の不純物を高温・減圧下で吸い出して、再びペットボトルとして利用。



FtoPダイレクトリサイクル技術

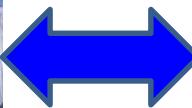
ペットボトルリサイクルの一部工程を省くことで、環境負荷低減と再生効率化を実現。この技術により、新たに石油由来原料を使用する場合と比較して、CO₂排出量は60%以上※削減。
※石油由来PETを使用したプリフォーム製造との比較

Bottle to Bottle Mechanical Recycling B to B メカニカルリサイクル



Flake to Preform Direct Recycling F to P ダイレクトリサイクル





行政・企業のアライアンス設立

- 弊社グループ企業が所在する同国にて2019年6月にローカルアライアンス『PRO』が設立
- PROはベトナム政府も参画しており、政府も循環型社会構築に積極的

小学生向け教育プログラム『水育』

- 水の循環の仕組みを通じて『水の大切さ』を学習するプログラム（2015年～）
- 累計参加人数18,000人超
- 海洋プラの話題も盛り込み、海に捨てない啓発を実施
- 有力NPOも水育に協働している

アジアの海洋汚染防止・プラスチック問題解決を目指すべく、
政府・企業・NPOと連携していく

1人1人がこの課題を自分事として捉え、行動を起こしていくことが求められている。
今後も地域社会と連携しながら、プラスチック問題に取り組んでいく。

■散乱防止啓発

散乱防止活動の取り組み実績（食品容器環境美化協会）

1973年 飲料6団体が自主的に「食品容器環境美化協議会」を設立。

1981年 飲料容器の散乱防止、
リサイクルの促進を目的として
「統一美化マーク」を採用。



1982年 飲料8団体を会員とする
「社団法人食品容器環境美化協会」設立

2011年「公益社団法人食品容器環境美化協会」として再発足



■ボランティア活動



世界各国の課題に合わせた
ボランティア活動に参加しています。



水と生きる suntory

サントリーグループは、水や農作物など自然の恵みに支えられた
総合酒類食品企業として、「**人と自然と響きあう**」を使命に掲げ
人々の生活を潤い豊かにすることと自然環境を守り育むことが共存し
人と自然が互いによい影響を与えあって永く持続していく社会をめざします。

人と自然と響きあう

To create harmony with people and nature

